

中心市街地に関する議論と現状分析

4



4 - 1 各会議での意見と市民の声

(1) デザイン会議での主な意見

第1回デザイン会議 (R5.8.22)

- 各論で検討できるため、エリアに分けて検討するのはよいと思う
- 市の施策やイベントは今まで個別で行われてきたが、つながらないとまちの発展にならない
- マルシェの来訪者がまちに参み出していく仕掛けづくりが大事になる
- 今治駅からは一歩リーにつなげる動線上で、先行して取組を進めていくことで、賑わいがまちに波及していくとよい

第3回デザイン会議 (R6.2.28)

- ハード整備だけでなく、担い手が必要であることから、エリアマネジメントの考え方は重要だ
- 行政と民間で役割分担をしながら、それぞれができることを運動させる必要がある
- ネウボラ拠点施設はシビックゾーン内で先行して動いているため情報共有が必要である
- 小さな子どもがいたら、ネウボラ拠点施設に来たついでに近くの公園で遊べるように周囲と連携してほしい

第5回デザイン会議 (R6.10.8)

- 商店街で外から出店者を呼び込むには、グランドデザインで今治が変わろうとしているメッセージを発信していく必要があると感じた
- 複合庁舎はいずれの候補地においても、しっかりと将来像とデザイン戦略に沿うような施設配置にしないといけないと思う
- エリアプラットフォームについては、不動産と連動していくと前に進んでいくのではないかと

第7回デザイン会議 (R7.2.27)

- 歩きやすいまちにしていこうことを強く市民に伝えて、みんなで共有していくことが大事である
- まちなかに自転車専用レーンをつくるなど、シンボリックになるように踏み込んでよいと思う
- グランドデザインで示されている事業等について、きちんと方向性を市民に提示することが重要である
- それぞれの地域資源が繋がって長く滞在でき、また行きたいと思えるようなまちづくりをしていけるとよい



第2回デザイン会議 (R5.11.22)

- 中心市街地に港があって、商店街等がつながっているのは、今治市独自のものです。他都市ではできないこと
- 中心市街地のエリア全体の雰囲気を変える戦略として、広小路をドラスティックに歩きやすいまちにしていこう戦略が面白い
- 今治商店街はイベントで子どもが遊べる空間になっていたため、日常化することが大事だ
- 公共施設は人が集まらざるを得ない場所で、ポテンシャルを秘めている

第4回デザイン会議 (R6.7.19)

- 各エリアを未来へどうつないでいくかを、地域の方々と一緒に考えて、計画に反映していただきたい
- 市民の方へのインプット・情報提供もいい、自分たちの住んでいるまちの良さに気づいてもらいながら将来像を考えていくことが重要
- 美保町はサイクリストと海外の方がよく訪れるため、現状のままで今治「らしさ」があると思う
- まちづくりと持続可能な公共交通は両輪になっていく必要がある

第6回デザイン会議 (R6.11.29)

- 平日にまちを利用している多くは中高生であるため、その人たちに対して何をしていくかが大事である
- 多くのインバウンドが訪れる今治城までの動線をつなぐことは重要である
- 城下町の通りと広小路などの近代に整備された通りが交差してきたのが現在の今治のまちなみであるため、双方の良さを生かして検討を行うべきである
- 広小路はより価値化し、市民が誇れるようなシンボル性があるものにしていきたい

(2) 空間部会での主な意見

第1回空間部会 (R5.9.11)

- マルシェを開催するのは中心市街地を賑やかにするために、駐車場は周辺を利用してもらうことで、まちなかに人が歩いている風景をつくることができた
- 中心市街地に一気に人を集めて終わりでなく、何もないときでも人がいて商売ができる環境があることが本当の賑わいだと思う
- 計画だけでなく人が大事で、行政にしても市民にしても、どれだけ本気でやれる人間がいるか。しっかり計画があったうえで、ぶれずにやることが大事だと思う

第3回空間部会 (R6.1.17)

- 近隣都市からも「おでかけ」感覚で来てもらう観光を考えてもよいのではないかと
- まちづくりに取り組むときに、しっかり収益を得られることも重要
- 現状個々の人や取り組みの横のつながりが弱い印象があるため、まちの課題に対応できるように、人と人を繋げる役割や機能が必要ではないか
- 中心市街地全体の組織として大きなテーマを掲げ、情報共有しつつ方向性を整える場があればよい

第5回空間部会 (R6.9.19)

- 広小路の整備については、商店街とのつながりは念頭に置くべき
- 「今治の顔」となる公共空間はよいと思う。暫定的なイメージを提示しながら進めると伝わりやすいのではないかと
- 中心市街地では、多様な取り組みがなされている中で、その情報を集約して発信する主体がない
- 魅力的な公共空間を整備するだけでなく、そこを活用する人や店舗があれば、その場所がさらに生きてくる。現状の魅力要素も可視化できればよい

第7回空間部会 (R7.2.5)

- 良いデザインとは、使いやすく、かつ地域の人が誇りに思えるかどうか大事になる。ものの形だけでなく、運用するマネジメントや維持管理、ルールづくり、安全性なども考えていかなければならない
- アクティビティ分析から南北に一つの固まりがあることに着目し、エリア設定を行っていることは、今治のまちの特性をきちんと捉えられていると思った
- 現在の提案はこれからの公共交通や市民生活について考えられているため、大きな分岐点を示していると思う



第2回空間部会 (R5.11.1)

- 広小路は、駅から中心部、港から駅、どちらからスタートしても楽しめるような空間として、「グリーン・アベニュー」はありだと思う
- 何があるかわからないが、行ってみたら何かあると思ってもらえるような場所にしないと賑やかにはならないと思う
- 自転車の人々を核となる場所に呼んでこなければいけない
- 日常的に何かあるというのは、市民活動だと思ふ。中心市街地にも市民活動を持ってくる必要がある

第4回空間部会 (R6.7.19)

- 日常的にまちなかに人が歩いている姿にしていこうことが重要であるため、まずはイベント時の賑わいを日常に波及させていくことが大事になってくる
- 広小路を将来的に事業化する時には、市と県で役割分担が必要になる
- 新モビリティの導入の際には安全に通行できるような道路空間が必要で、一緒に考えていきたい
- 単なる計画というよりも「生き物」というイメージを持った。動きながら進んでいくのではないかと印象を受けた

第6回空間部会 (R6.11.6)

- 「住んでいる人が住みやすいまち」だけでは波及する力が弱い。対外的にアピールするには、こういう場所があるなら行ってみたいというシンボル性は必要になる
- 滞留と回遊を考えたときに、まず滞留できる場所に誘導し、次の滞留場所に誘導すれば回遊が始まると思う
- 滞留場所の要因を考えたときに、例えば市役所周辺は用事があると思った。用事があるところをうまく点在させるべき
- 提案内容を実現できれば、視覚的にも行きたくなるようなきっかけになると思う

4 - 1 各会議での意見と市民の声

(3) エリア別市民会議での市民の声

美保町～北浜エリア

- ・漁師町で住民の人口は減ってきており、空き家が多くみられ、敷地も狭く細街路も多い
- ・潮の満ち引きによって、停泊している漁船の高さが変わる。満潮時には護岸沿いに並ぶ船の迫りがすごい
- ・石橋の防潮堤は、昔に大学の先生方が視察に来た際に価値が高いと言っていた
- ・北浜町の空き地（臨港地区）について、活用ができないか検討している など



松本町周辺エリア

- ・毎年おんまくと同日に芝っ広場で「松本町大作戦」を開催している
- ・芝っ広場は使いやすい場所になってほしい
- ・自分たちの取組と行政の取組の間には境界線があり、横断した議論はなかなかできていないが、市の取り組みまちづくりに関心がないわけではないため、引き続き話し合いを行いたい など



エリア別座談会

まちづくり活動の機運が高い今治港や今治商店街等で活動されているプレイヤーについては、エリアプラットフォームの設立に向けた意見交換等を定期的の実施しました。



今治城周辺エリア（通町・恵美須町等）

- ・今治城に対する町割りで構成された海側のエリアを旧市街（オールドイマバリ）と呼んでいる
- ・オールドニュータウンには、歴史的な遺構が散財している（かつてのまちの特徴が残る旧町名を表示してはどうか）
- ・歴史を活かしたまち歩きコースの提案など



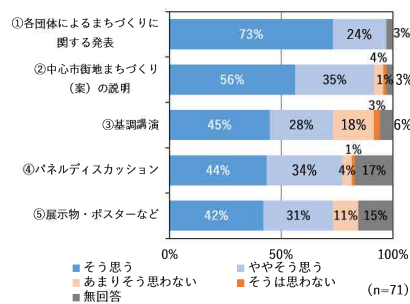
旭町エリア

- ・八木酒造部は1890年代に現在の場所に事務所を構え、現在では市内で唯一の酒蔵となっている
- ・今治の中心市街地は、昔のような賑わいを取り戻すことは難しいと思うが、観光に特化したエリアにすることはできるのではないかと。外から来た人をどうまちに迎え入れるかが重要だと思う など

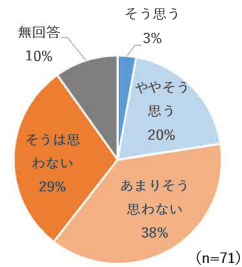


(4) まちづくり市民会議での市民の声（参加者アンケート結果より）

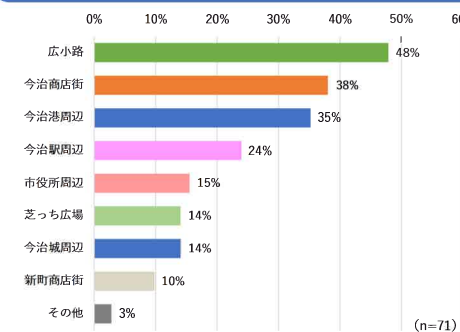
Q. 開催内容は満足できるものでしたか



Q. 現在の中心市街地に満足していますか



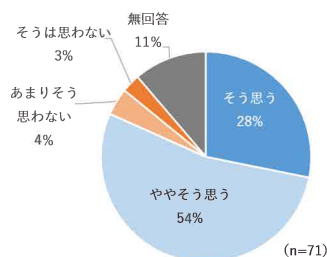
Q. 特に良いと思ったエリアや印象深かったエリアはありますか



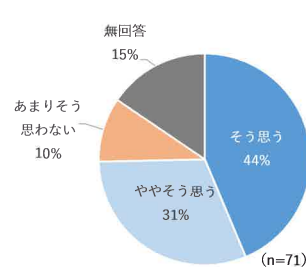
- ・子どもの集まる場ができれば親もついて来て、新たなコミュニティが生まれると思う【今治商店街・新町商店街】
- ・活用できていないと感じた部分だったから【芝っ広場、今治商店街、今治駅周辺】
- ・今治駅のタクシーの部分は確かにいいスペースになったと思った【今治駅周辺】
- ・魅力あるスポットを点在させることで、点を線でつなぎ、飽きることもないまちづくりができるのかなと思った【芝っ広場、今治駅周辺】
- ・アーケードがあると雨の日も活動できるので大切にしてほしい【今治商店街】
- ・今治港から今治城へのルート整備に期待【今治港周辺】
- ・イベントの会場にできる可能性を感じられた【市役所周辺】
- ・港と駅の広小路を中心市街地の幹とする空間が、今治のまちの象徴的なまちづくりになると思う【広小路】

※【 】内は回答者が選んだエリア

Q. 中心市街地まちづくり（案）で説明された将来像の内容は満足・期待できるものでしたか



Q. 中心市街地まちづくり（案）が実現した場合、中心市街地を訪れる回数は増えると思いますか



Q. 中心市街地活性化に向けてあなたが必要だと思うことや今後の中心市街地まちづくりに期待すること、その他ご意見等

- ・商店街の再生が、中心市街地活性化に向けての大きな力になると思う。中高生が立ち寄って話したり勉強したりできる空間になってほしい
- ・やろうと思う市民が一人でも多くなればと思う
- ・そもそも未来の今治市がどうあるべきか、どんな都市として魅力を持たせていくのか、その物語をつくったうえで、現在取り組みをしている人をもっとヒアリングし、計画を策定していってもらいたいと思いますし、私も参加したいと思う
- ・起点となるプロジェクトを早く動かして、街が変わっていくという機運を作ることがまずは重要だと思う
- ・まちづくりは今日・明日でできる事ではないと思うので、やはり子供達を巻き込んで未来に向けて一歩ずつ進めていくべきことだと感じました
- ・一人ひとりの期待が異なるので、様々な事にチャレンジして欲しい



4 - 2 ネットワーク空間特性とアクティビティ分析

(1) 現況分析の考え方

なぜ、「ネットワーク空間特性」の分析が必要か？

「人」の存在なくして「まち」は成立しません。そして、まちにおける「人」は、突然そこに出現するわけではなく、どこから「やってくる」ものです。ネットワークが良くつながっているまちは、目的地にたどり着きやすく、「ついで」に寄り道もしやすい、回遊しやすいまちです。また、そのようなまちでは、ものごとや人との良い「出会い」が起きやすくなります。

ネットワークが自然な人通りをつくり、人通りが経済的な価値をつくる。

ビル・ヒリアー
(ロンドン大学UCL教授：専門は都市建築空間分析)

歩行者行動を観察することが、場所と人の相互作用の善し悪しを理解する、最善の方法である。

ヤン・ゲール
(デンマーク王立芸術大学教授：専門は都市デザイン)

そもそも、何を指した分析なのか？

量よりも関係性、つながりを良好にすること。エリアの価値を多くの観点から捉えて、ポテンシャルを見つけて伸ばすこと。これらの実現のために、まず押さえるべき空間デザインの要点を見つけ出すことを目指しています。

流通価値	空き店舗が減る。家賃が安定する。
利用価値	使いやすい。快適・便利に仕事、買物、観光ができる。
イメージ価値	ブランドイメージが上がる。市民が誇れる。
社会的価値	安全・安心に過ごせる。世代間の交流があり、道徳心や思いやりが伝わる。
環境的価値	よりクリーンな環境に居られる。歩いて（自転車で）生活、行動できる。
文化的価値	感動を与えられる。地理的・歴史的な文脈を、その場所でも伝えられる。

良い都市空間デザインは、私たちの日々の暮らしを様々な面から豊かにする「価値」を生む。

CABE英国建築都市環境委員会
(2000年代に良好な都市デザインの普及活動を行った政府機関)

なぜ、「アクティビティ」が重要か？

いま、そこで、実際に、何が起きているのか？人が、居るか居ないか、だけでなく、どのように過ごしているのか、楽しんでいるのか、否応なく移動しているのかといった情報は、現地での観察調査でなければ得られないものです。そして、これらの状況を正しく理解することは、将来のビジョンを議論する際に不可欠であると考えます。

この手法の特徴は？

人間の認知（気づく、見える、行ける、など）に対応した空間分析手法です。スマホから得られる情報や案内サインに頼り過ぎず、感覚的に歩きまわったり、気が向くところで座ったり、休めたりするような状況をつくるために、客観的な現状理解から検討を進めます。

“Seeing is believing” 情報・サインよりも「そのもの自体が見える」ことのほうが、行動を変えやすい。

アーバンデザインの定説

類似の手法を用いた事例



トラファルガー広場の再整備

(ロンドン: 2003竣工)

歴史的な価値を持つ広場でありながら、有効に使われず、市民からの評判も悪かった公共空間を再生した事例。アクティビティの調査、ネットワーク空間特性の分析によって、広場の持つ課題及びポテンシャルを可視化、さらに、デザイン案の客観的な評価を行い、意思決定に根拠を与えた。

姫路駅 姫路駅前再整備 歩行者空間の再整備の効果予測



姫路駅前の公共空間再整備

(姫路市: 2015竣工)

城下町の面影を残す中心市街地と、鉄道駅との間の動線的なつながりが悪く、暗い印象になっていた駅前広場及びメインストリートを再構成した事例。歩行空間ネットワークの大幅な改善が予想されることを整備前に可視化し、市民団体等による活動を促す機運の醸成につなげた。

4 - 2 ネットワーク空間特性とアクティビティ分析

(2) 現況分析の概要

人の行動は空間の「つながり」に大きく影響を受けるとされており、その特徴を客観的にとらえる分析手法の実施と、計画への反映が求められます。

そこで、今治のまちが、現時点でどのような都市空間構造となっているのかを理解するために、実地におけるいくつかの観察調査及び空間特性のデータ化、可視化を行いました。それぞれについて特徴や課題を考察するとともに、それらの要点を次ページに整理します。

■ 現地調査の概要

【調査日時】

- ①2024年 7月13日（土） 10:00～19:30
- ②2024年 7月22日（月） 10:00～19:30

【調査内容】

- 1) 歩行者量分布調査（ゲートカウント）
- 2) 歩行行動調査（トレース）
- 3) 滞留行動調査（スナップショット）

ネットワーク空間特性の分析

⇒ 街路や場所の特性を、接続的・連続的に動きが広がるための「つながり」の観点から定量化、可視化

様々な現象のベースとなる
まちの「かたち」の特徴を明らかに



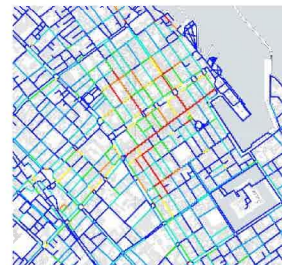
認知的つながりの良さ



動線的つながりの良さ



店舗出入口の分布



店舗出入口の密度

整形に近いグリッド構造を持つ今治市において、街路空間や場所ごとの特性を「つながり」の観点から丁寧に読み解くことで、都市の「ツボ（要所）」を探る

アクティビティ分析

⇒ まちに来る・居る「人」がどのような行動をしているのかを把握するとともに、潜在的なニーズや行動の可能性を探る

現在の機能状況として表れる
人々の行動・アクティビティ



歩行者量分布（ゲートカウント）



歩行行動（フォロ잉）

調査日：

- 2024年 7月13日（土） 10:00～19:30
→ マルシェ、夜市開催日
- 22日（月） 10:00～19:30
→ 普通の平日



滞留行動（スナップショット）



調査時の様子

一見すると人通りがまばらな印象の今治市において、まちに来る・居る「人」の活動の観点から調査分析し、顕在化していないパブリックライフを可視化する

現況分析結果の使い方

（ねらい） ネットワーク空間特性やアクティビティの分析を通して計画確度の向上を図る

課題・ポテンシャルの抽出

例えば、商店街のある場所から急に人通りが少なくなるとすれば、そこになんらかの課題があると考えられます。さらに歩行者の回遊範囲を広げることを目指すのであれば、そこに何らかの状況改善の鍵があると考えられます。

将来予測と可視化

例えば、将来、新たな歩行者経路を設ける場合に、周辺も含めた動線がどのように改善するかなど、空間特性指標を用いて、事後の状況を客観的に予測、可視化を行うことができます。これを案の改善や、意思決定に活かすことが考えられます。

空間活用の動きとの連携

ここで得られる情報は、ハード整備による改善・変更のみならず、イベントや新たな店舗の出店時における候補地の選定や機能配置などの検討にも活かれます。場所の特性に合った活用により、成功に近づきやすくなります。

4 - 2 ネットワーク空間特性とアクティビティ分析

(3) ネットワーク空間特性分析 (街路空間の接続性)

ここで参照する空間特性指標は、「見える」、「気づく」、「経路がわかる」、「行ってみようと思う」・・・というような人の空間認知や行動欲求と関係が深いものです。これらの情報から、街のカタチ（街路構成や接続関係）について、客観的に理解することを目指しました。その結果、以下の特徴を読み取りました。

- ① 今治商店街は、認知的なつながりが良く街路ネットワークの中心軸となっている。一方、広小路は、市役所付近で屈折していることなどから、ネットワーク特性としてはそれほど中心性が高くない。
- ② 弥生公園を中心とするエリアは、動線的に歩きやすいエリアとなっている。シビックゾーンの現状においては、街区サイズが大きく回遊性が低いエリアとなっている。
- ③ 市役所周辺やシビックゾーンにおいて、歩行動線としてのつながりに欠ける部分が見られる。駅前広場（ロータリー周辺）は途中経路として利用されにくい特性となっている。
- ④ 今治城に対する近接感（近いと感じやすさ）は、広小路や県道を境に低下することがわかる。また、今治城と今治港が遠く感じやすいことも示されている。



① 認知的つながりの良さ - 近接中心性 - 解析範囲 R4 (累計屈折角度=360°)
1本の道として認識される街路空間の「全幅」に対して1本（歩車道を区別せずに）中心線を連続的に引いた「認知モデル」。人々がその街の構造をどのように認知しているのかを知るために、これらの軸線（線分）相互の接続関係グラフ理論を用いて指標化。値が高い（赤系）ほど、「表通り」的に認知されやすい。



② 動線的つながりの良さ - 近接中心性 - 解析範囲 400m
直接歩いて「行ける」範囲を一つの空間のまとまりとして、1本の線で表現した「動線モデル」。グラフ理論における近接中心性によって指標化。人の活動の多さとの相関があるとされており、値が高い（赤系）ほど、動線的なつながりが良く、人の活動が集まりやすい。



③ 途中経路としての通り掛かりやすさ - 媒介中心性 - 解析範囲：800m
動線モデルをベースとして、800m圏内に含まれる任意の2地点間の最適経路を総当たりで計算し、その途中経路として選ばれた回数を単位空間（街路セグメント）ごとに集計して指標化。値が高い（赤系）ほど、800m圏内での移動の際に途中経路として利用される可能性が高い。



④ 今治城からの近接感 < 距離 + 屈折の統合指標 >

動線モデルをベースとして、主要施設からの人が感じる「近さ・遠さ」を、物理的な距離（メートル単位）と認知的な距離（屈折角度の累計）のそれぞれでデータ化し、それらを合成して指標化。値が高い（赤系）ほど、主要施設から近く感じる場所となっている。

4-2 ネットワーク空間特性とアクティビティ分析

(4) ネットワーク空間特性分析 (沿道建物について)

前頁で示した接続性のほかに歩行回遊性に影響を与える要素として、街路と建物の関係があります。例えば、沿道に店舗出入口が連続している街路では、楽しく歩行を続けやすいとされています。

ここでは沿道から認知できる建物出入口をプロットし、街路ごとに集計、可視化しました。その結果、以下の特徴を読み取りました。

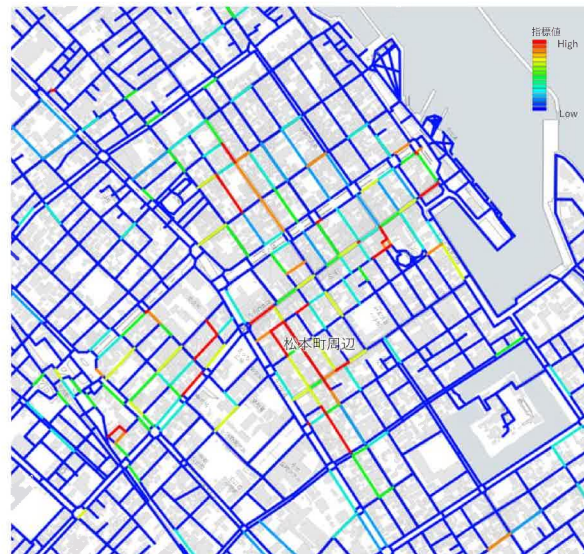
- ① 今治商店街は、エリアの中で最も店舗の連続性がある場所となっていることがわかる。一方、シビックゾーンや市役所周辺、今治駅周辺などは、街区が大きく、沿道に建物出入口があまり面していない。
- ② 物販店舗は、今治商店街、本町商店街に沿って多く分布している。
- ③ 飲食店舗は、松本町周辺など、いくつかに局所的な集積が見られるが、それら界限相互の空間的つながりはあまり見られない。
- ④ 街路区間ごとの店舗タイプの分布を見ると、来街目的の大まかな傾向を推察することができる。例えば、飲食目的の人の回遊では、広小路の市役所側や、ドンドビ交差点周辺を通る潜在的な可能性があることがわかる。



① 建物出入口の分布



② 建物出入口の密度 (物販店舗)



③ 建物出入口の密度 (飲食店舗)



④ 街路区間ごとの店舗タイプの累計

4 - 2 ネットワーク空間特性とアクティビティ分析

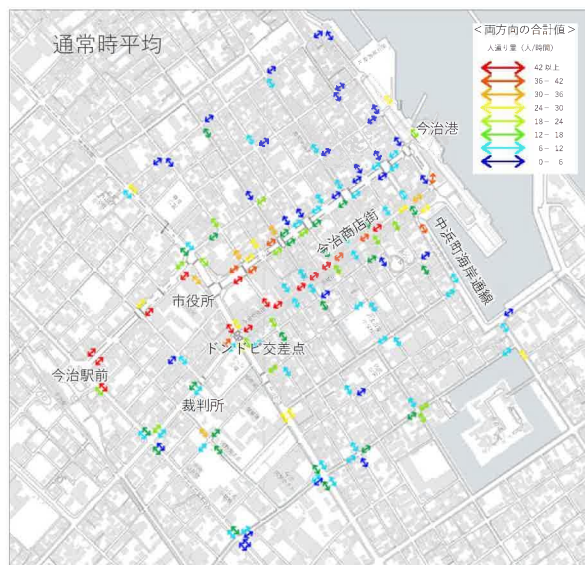
(5) アクティビティの現状 (歩行量・移動行動)

現状において、エリア全体がどのように機能しているのかについて、まず、歩行者の量と、移動行動のデータから理解を試みます。単に「人通りが少ない」という感覚的な議論ではなく、どの街路区間に、どの程度の人通りがあるのか、分布を詳細に可視化します。

また、商店街周辺においては、移動の経路選択の現状、移動途中の立ち止まり行動などの詳細な歩行状況を明らかにします。これらによって、移動の動機付け、あるいは障壁となっている要素などについて明らかにします。

①② イベント開催中などを除く「通常時」の歩行者量分布を可視化すると、市役所〜ドンドビ交差点を中心に、東側（今治商店街、今治港）と西側（今治駅）と多くの歩行者が分布していることがわかる。また、裁判所南側や中浜町海岸通線などにも、比較的多くの歩行者の流れが確認できる。

③④ 歩行軌跡の調査データから、今治商店街や広小路では、軸線方向を連続的に通るよりも、それらを部分的に通りつつ、直行する横道を通り抜けている行動が多くみられることが明らかになった。



① 歩行者量分布（両方向：通常時 平日・休日：午前～午後 平均）



② 歩行者量分布：通常時の状況まとめ



③ 休日の歩行軌跡



④ 歩行軌跡：通常時の状況まとめ

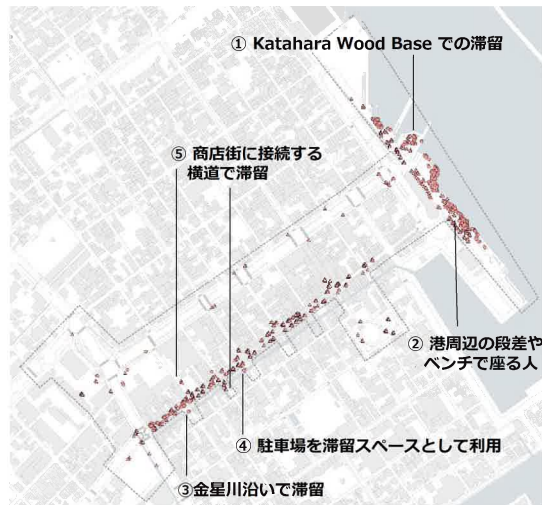
4-2 ネットワーク空間特性とアクティビティ分析

(6) アクティビティの現状 (滞留行動)

滞留行動データから読み取れる情報は、まちの機能特性のうち、快適性や魅力度などの要素と関係が深いです。快適な屋外空間で、飲食したり、会話を楽しんだりすることができるまちは、社会的、文化的な価値があると言えます。

また、そのように人が集まり、滞在することによって、商業的、経済的な価値も高まることが期待できます。

- ① 平日の通常時においては、今治商店街や広小路でのポジティブな滞留行動は、あまり見られない。一部、飲食店周辺などにおいて、立ち話をしている様子が見られる。また、今治港では、若者の集団が遊ぶ様子が観察されている。
- ② 休日のイベント時においては、多様な滞留行動が観察された。グループで訪れ、今治港の屋外空間で時間を楽しむ人が多い一方で、快適な滞留空間の不足（潜在的な利用可能性）も確認することができた。



② 休日（イベント時）の特徴的な滞留行動



① Katahara Wood Base での滞留



② 港周辺の段差やベンチで座る人



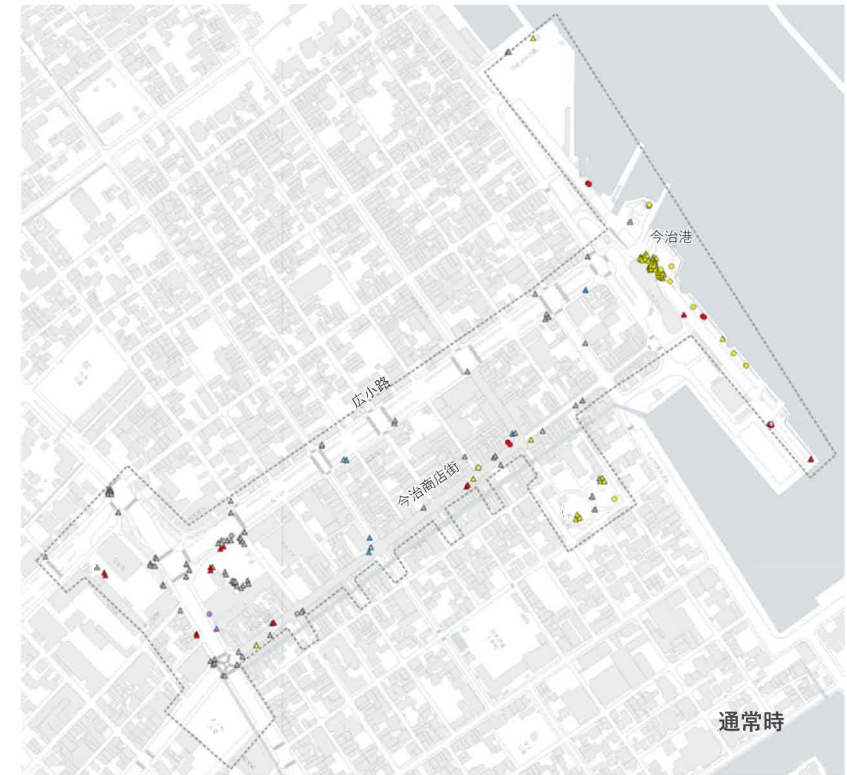
③ 金星川沿いで滞留



④ 駐車場を滞留スペースとして利用



⑤ 商店街に接続する横道で滞留



4 - 3 エリアの設定と現状分析・課題

エリアの設定と各エリアの現状分析

A 今治港～内港～今治城

- ・今治港から広小路・商店街方面へのつながりが弱い
- ・今治港・今治城の視覚的・動線的つながりが弱い
- ・水辺の風景や堀などの歴史的資源が十分活用されていない
- ・来訪者が多い今治城のアプローチ空間や周囲との接続の改善

B 広小路（今治港線、港側）・新町商店街

- ・広小路の海側のアイストップとして港側が、歩行回遊性の拠点として設えられていない
- ・新町商店街は閉じている店舗が多い。近年新規店もある
- ・金星川や滞留行動がみられる辰の口公園の活用可能性

C 広小路（今治港線、中央部）・今治商店街

- ・クスノキが残る広幅員街路である広小路のシンボル性
- ・広小路は治道店舗が少なく今治商店街は閉店舗が多い。
- ・商店街におけるイベントの蓄積がある

D 広小路（今治港線、市役所側）・ドンドビ交差点・市役所

- ・市役所と港と結ぶ広小路のシンボル性が活かされていない
- ・市役所前交差点の滞留空間が回遊拠点になっていない
- ・市役所移転に伴う庁舎の活用と市民広場の整備可能性
- ・ドンドビ交差点が商店街入り口としてのゲート性に乏しい

E 今治駅周辺

- ・広小路（今治停車場線）の環境や歩行者を活かした、道路幅員再構成やほこみち制度の導入による利活用の促進
- ・今治駅周辺は駐車場とロータリーが多く面積を占め、自転車、歩行者の回遊拠点としての機能に乏しい
- ・駅前からシビックゾーンの中央部に向かう歩行動線

F シビックゾーン周辺

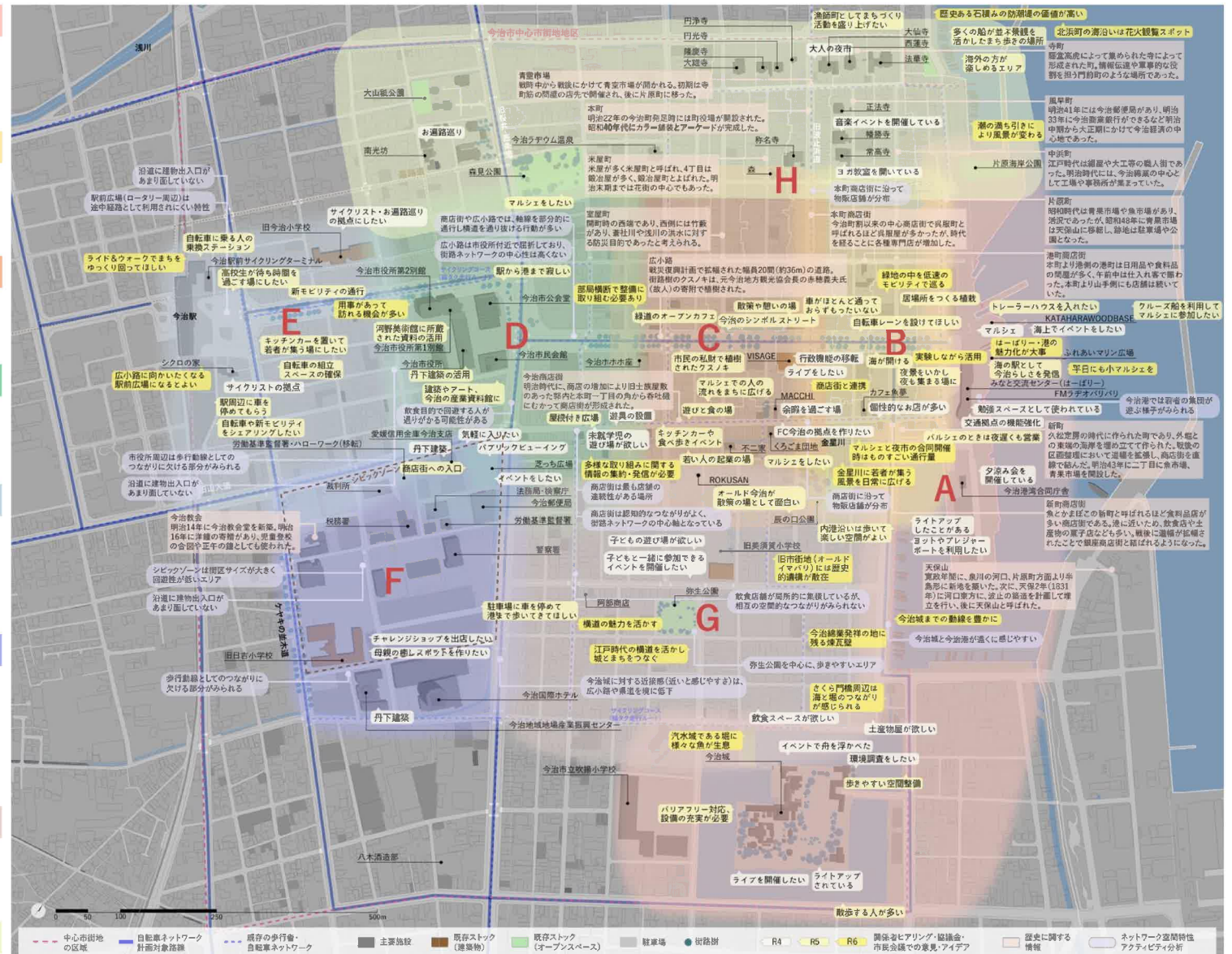
- ・ネウボラ拠点施設等、整備予定の公共施設による拠点性の向上が求められている
- ・街区が大きく、隣接街区との接続状況から、エリアとして歩行回遊性のポテンシャルが低い
- ・芝っ広場が管理運営上の課題から十分活用されていない
- ・各公共施設更新にあたってゾーン全体での歩行動線、滞留空間の創出が求められる

G 松本町周辺

- ・昔からの繁華街として娯楽・飲食店の面的集積がみられる
- ・今治城周辺に近接中心性が比較的高いエリアがある
- ・弥生公園周辺に媒介中心性が高い部分がみられる

H 寺町周辺～美保町

- ・老朽化が進行する木造家屋や空き家が多くなっている
- ・11の寺社が残るなど城下町の面影を残すエリアで寺社は音楽等のイベント会場に活用されている
- ・美保町は歴史的な防潮堤や漁船の風景など海外観光客からも注目されている



中心市街地まちづくり構想で設定したエリアに対して、令和5～6年度の検討、令和6年度のネットワーク空間特性・アクティビティ分析の結果も踏まえ、中心市街地の回遊性向上・エリア間のつながりの強化を考慮したエリアの再設定をおこなった。